



IPランドスケープを実践するための特化型生成AI活用ツール

Felo AI

IPランドスケープ向けの特化型生成AIツールは、「(1) 特許DB×生成AIのSaaS」と「(2) コンサル・SI型のIPランドスケープAIサービス」の2系統に大別されます。^{[1][2]}

1. IPランドスケープにおける生成AI活用の全体像

- 生成AIは、特許・論文・市場情報を統合し、仮説設定～可視化までのIPランドスケープ・サイクル全体を高速化する位置づけになっています。^{[3][4]}
- 特許庁ガイドブックが想定する「俯瞰・将来予測」「競合ベンチマーク」「新規用途探索」などの目的に対し、従来のBI+人手分析のボトルネック（検索式设计、クレンジング、クラスタリング、レポート作成）を生成AIで代替・補完する方向です。^{[5][1]}

2. ツール群のマッピング（用途別）

代表的な「生成AI×特許分析／IPランドスケープ」ツール・サービスを、機能軸で整理します。^{[2][6]}
^{[7][8][3]}

カテゴリ	代表ツール / サービス	主対象ユーザー	IPランドスケープ寄与の主眼
特許DB一体型AI分析SaaS	Patentfield AIR, Summaria, Tokyo AI, AI Samurai など ^{[6][7]}	企業知財部、特許事務所、技術企画部門	大量出願の俯瞰、技術・競合マッピング、要約・クラスタリング、自動レポート生成
戦略特化型プラットフォームフォーム	AI特許ロケット（エムニ） ^{[9][9]} ^[10]	製造業の事業部・経営企画+知財	事業戦略と結びついた特許マップ自動生成、示唆出し、R&Dテーマ検討支援

コンサル型IPランドスケープAIサービス	デロイト「AIを活用したIPランドスケープ分析」 「Quick IP Analytics」 ^{[2][8]}	大企業の経営・新規事業・知財	各社DB+独自機械学習によるクラスタリング・ネットワーク分析・SWOTレポート
AIエージェント連携型	MyTokkyo. AiのChatTokkyo機能など ^[11]	自社技術者と知財の協働	パテントマップ+AIチャットで個別特許読み込み、自社技術比較、戦略示唆抽出
汎用LLM+独自ワークフロー	社内LLM+特許DB+ノートツール等（事例・ブログ多数） ^{[12][13]}	IPアナリスト、先端的知財部	仮説生成、粗スクリーニング、ドラフトレポート作成などの「IPランドスケープ・オペレーティングシステム」化

3. 代表SaaSツールの徹底分析（IPランドスケープ視点）

3-1 Patentfield AIR（Patentfield）

- 位置づけ
 - 「AI特許総合検索・分析プラットフォーム」で、8000万件超の特許を生成AIで要約・構造化し、読むよりも「見る」体験に変えることを標榜しています。^[7]
- IPランドスケープで効く点
 - AIサマリー／AIサマリー分析により、個別公報のコア技術・課題・解決手段を短時間で把握し、俯瞰分析の深掘りフェーズを高速化。^{[6][7]}
 - 大量データ処理性能が強みとされており、数千～数万件レベルの文献をクラスタリング・マッピングして技術動向を視覚化する用途に向きます。^{[8][6]}
- 留意点
 - 生成AI層は特許テキストの要約・構造化が主であり、「経営課題に結びついた示唆」まで自動で出すには、ユーザー側の仮説設計・外部市場データ連携が前提になります。^{[3][1]}

3-2 Summaria

- 位置づけ
 - 生成AI活用特許分析ツールの一つとして、Patentfield AIR等と並列に比較されており、要約・類似文献抽出・マッピング系の機能を備えると整理されています。^[6]

- IPランドスケープで効く点
 - 生成AIでの要約・特徴抽出を活用し、クラスター単位の特徴付けや、競合／自社のポジショニング把握など、マクロ～ミクロの橋渡しに向きます。[\[11\]\[6\]](#)
- 留意点
 - 公開情報ベースでは、事業戦略レベルのダッシュボードや経営向けアウトプットがどこまでテンプレ化されているかは限定的にしか把握できません。[\[6\]](#)

3-3 Tokkyo AI（リーガルテック）

- 位置づけ
 - 発明抽出～調査～ランドスケープを一気通貫するコンセプトで、MyTokkyo.Aiの Patent マップ機能とAIエージェント「ChatTokkyo」が特徴です。[\[11\]\[6\]](#)
- IPランドスケープで効く点
 - Patent マップでマクロ俯瞰しつつ、ChatTokkyoで個別特許の読み解き・自社技術との比較・競争力獲得の方法の検討を対話的に行うワークフローが紹介されています。[\[11\]](#)
 - note記事では、「競争力を獲得する方法の検討」を目的としたIPランドスケープ実践例が示されており、現場技術者と知財による共同検討を支える設計になっています。[\[11\]](#)
- 留意点
 - Patent マップの設計思想やクラスタリング手法の透明性、外部市場データ連携の有無によって、経営レベルへの説得力が変わるため、PoC時に検証が必要です。[\[14\]\[11\]](#)

3-4 AI Samurai

- 位置づけ
 - 元々は出願前調査・類似文献評価・明細書草案提案など「権利化前後の実務」寄りのAIとして知られますが、生成AI活用特許分析ツール比較の文脈でも取り上げられています。[\[15\]\[6\]](#)
- IPランドスケープで効く点
 - 類似文献評価やクレームレベルの比較に強みがあり、ランドスケープの中でも「重要コア特許の抽出」「競合重要特許のリスク評価」のようなマイクロ分析に適します。[\[8\]\[6\]](#)

- 留意点
 - マクロな技術俯瞰や経営向けダッシュボードよりは、特定テーマのディフェンス／オフェンス戦略検討に活きる位置付けで、ランドスケープ前後工程との連携設計が鍵です。^{[11][6]}

4. 戦略特化型：AI特許ロケット（エムニ）

- コンセプト
 - 「知財調査・分析にかかる費用・時間を生成AIで99.9%削減し、誰もが知財情報に基づいた意思決定が可能になる」ことを掲げた、戦略指向の生成AIプラットフォームです。^{[10][16]}
- IPランドスケープ機能
 - 特許マップ自動生成：特許テキストをベクトル化し、クラスター単位で自社・競合技術をマッピング、従来人手で行っていた分類・マッピング作業を自動化。^[9]
 - 戦略的示唆の自動生成：マップをAIが解析し、技術空白領域、新規用途候補、潜在的事業リスク・競合トレンドなどを文章で提示する「示唆出し」機能を持つとされています。^{[9][3]}
 - 生成AI×IPランドスケープの3ステップ（仮説設定、データ統合、可視化）に沿って、経営課題⇔技術・特許を結びつける実装ステップが整理されています。^[3]
- 強み（ランドスケープ文脈）
 - 事業戦略との接続を前提に設計されているため、「IPランドスケープ＝レポート屋」から「IPランドスケープ＝意思決定支援エンジン」への転換を狙いやすいです。^{[16][3]}
 - 製造業向けを想定しており、R&Dテーマ選定やアライアンス候補探索など、経営・事業側のKPIと親和性の高いアウトプット例が示されています。^{[9][3]}
- 限界・検証ポイント
 - LLM単体の洞察力の限界、特許DBとの統合精度、クラスタリング精度など、生成AIランドスケープ共通の技術課題は残っており、PoCで精度・再現性を評価する必要があります。^{[4][11]}

5. コンサル・エージェント型サービス

5-1 デロイトトーマツ：AIを活用したIPランドスケープ分析

- サービス内容
 - 商用特許DB+自社開発の機械学習を組み合わせ、特許・論文を対象とした技術トレンド分析、企業間ポジショニング分析、新規用途探索、アライアンス候補探索を行うサービスです。^{[2][8]}
 - ステップとして、IPC別出願件数成長率と出願シェアのマクロ把握、機械学習クラスタリングによるマイクロ分析対象の特定、市場調査連携、SWOT分析までの一連フローが提示されています。^[8]
- 生成AI要素
 - 明示的に「生成AIツール名」が前面には出ていませんが、文章生成や要約、ネットワーク分析の解釈の一部に生成AI/LLMを組み込んだアナリティクスとして位置づけられています。^{[2][11]}
- 特徴
 - ツール選定・実装に加え、経営・事業側の意思決定プロセスとどう接続するかまで含めてサービス設計されており、「IPランドスケープの業務プロセスごと外注+共創」モデルです。^{[2][8]}

5-2 AIエージェント+特許プラットフォーム (MyTokkyo.Ai)

- 実務例
 - まずキーワード検索とパテントマップでルアー分野の特許動向を俯瞰し、その後ChatTokkyoで個別特許を読み解き、自社技術との比較や競争力獲得策を検討するワークフローが紹介されています。^[11]
- IPランドスケープでの意義
 - アナリストが一人で完結する従来型から、技術者・ビジネス側がAIエージェントと対話しながら仮説検証する「協調型ランドスケープ」のプロトタイプと捉えられます。^{[12][11]}

6. 特化型生成AIツールをどう選ぶか（実務導入観点）

生成AI×IPランドスケープについての技術課題・導入ステップを整理したレポートでは、以下のよう
なポイントが指摘されています。^{[17][14][1]}

- 技術課題
 - LLMの「洞察力の限界」：特許DBの構造化データを扱う精密分析は苦手であり、既存の統計・機械学習と組み合わせが必要。^{[4][14]}
 - データ統合：特許、論文、市場レポート、ニュース、社内ナレッジなどの多層データ正規化・マッピングがボトルネック。^{[4][3]}
- ツール選定の観点
 - 現状のIPランドスケーププロセスの棚卸しと課題抽出を行い、「Patentfield AIR、Summa ria、Tokkyo AI、AI Samurai」などの特性を踏まえて最適ツールを選ぶステップが推奨されています。^[1]
 - 特許分析だけでなく、発明発掘支援、クレーム・明細書作成、拒絶理由通知対応、無効審判支援などとの連携も考慮する必要があるとされています。^[18]
- 実務への実装ステップ（例）
 - ①経営・事業課題から粗い新規事業仮説を生成AIで複数案出す
 - ②各仮説に対し、プレーヤー／出願推移／代替技術をクイックに当てにいく
 - ③当たりの良い仮説を深掘りし、短時間で検証メモを返す
という「軽量IPランドスケープ」の実装例も提案されています。^[12]

7. あなたの用途に合わせた実践的な構成案

IPランドスケープを「経営・事業戦略のための反復サイクル」と捉え、特化型生成AIツールを組み合わせる構成例を挙げます。^{[12][3][1]}

- シナリオA：既存IPランドスケープの高度化

- ツール：Patentfield AIR or Summaria+自社BI
- 用途：大量特許のAI要約・クラスタリング→Excel/BIでの可視化→LLMでレポートドラフト生成
- シナリオB：新規事業テーマ探索ドリブン
 - ツール：AI特許ロケット+Tokkyo AI（マイクロ検証）
 - 用途：事業課題からのテーマ抽出→特許マップ自動生成→示唆出し→個別特許比較・自社技術マップへの落とし込み
- シナリオC：外部コンサル活用
 - ツール：デロイト等のIPランドスケープAIサービス
 - 用途：経営アジェンダに直結するプロジェクト（M&A候補評価、新規事業ポートフォリオ策定など）で、短期に「完成度の高い図表+ストーリー」を獲得

1. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/98be50393604a3b16da7.pdf>
2. <https://www.deloitte.com/jp/ja/services/consulting/services/ai-ip-analytics.html>
3. <https://media.emuniinc.jp/2025/10/30/generative-ai-ip-landscape-strategy/>
4. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/9ae4408a2416d5923279.pdf>
5. https://www.jpo.go.jp/support/example/ip-landscape-guide/document/index/all_guidebook.pdf
6. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/34eff7c02387c7ab46b1.pdf>
7. <https://product.patentfield.com>
8. <https://www.deloitte.com/jp/ja/services/consulting/services/quick-ip-analytics-service.html>
9. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/5ea0296092b2cd798edc.pdf>
10. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000134983.html>
11. https://note.com/tokkyo_ai/n/n93f179342d7e
12. <https://note.com/tshioya/n/n9668b7946659>
13. https://note.com/yu_py/n/na23e6c4375eb

14. <https://note.com/tshioya/n/n8ad13b01a3d1>
15. <https://aisamurai.co.jp>
16. https://www.wantedly.com/companies/company_6183378
17. <https://yoroziipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/30ca54a82d7cf049fcd0.pdf>
18. <https://yoroziipsc.com/blog/patentfield-air-summaria-tokkyo-ai-ai-samurai>
19. <https://www.youtube.com/watch?v=Jk8JC8XM3sA>
20. <https://www.youtube.com/watch?v=MpKqxeU-gUQ>
21. https://www.youtube.com/watch?v=sLR_0BBzK_0
22. <https://www.youtube.com/watch?v=I5QgnM9ker0>
23. <https://ccreb-gateway.jp/reports/ipl/>
24. <https://sipi.jp.sharp/index.php?s=%2Fsys%2F290.html>
25. <https://book.st-hakky.com/business/ai-patent-tool-comparison>
26. <https://patentfield.com/news/296>
27. <https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000020.000086119.html>